

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

**エントリー学校名**

鹿児島県 出水市立鶴荘学園

**活動名**

キャリア教育でカリマネ～具体的な「16の姿」を核として～

**解決すべき課題**

先行き不透明と言われる社会背景の中、児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通し、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けるキャリア教育が求められている。また、新学習指導要領の改訂の方向性から、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校へのつながりが明確になるように、小学校の学級活動に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設されたり、特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を担うことが位置付けられたりし、キャリア教育の一層の推進をしなければならない必要性から、本研究主題を設定した。

**目標・方針**

社会に「開かれた教育課程」実現のために、現在のカリキュラムをキャリア教育の視点で見直し、カリキュラム・マネジメントを図ることを研究のねらいとした。

**活動内容**

社会に開かれた教育課程の実現を目指し、カリキュラム・マネジメントを続けていくという考えから、既存の教育課程をキャリア教育の視点で見直すこととした。キャリア教育推進委員会【図1】で協議されたことをもとに、職員研修【写真1】の内容を検討し、全職員でキャリア教育のねらいが達成できるようにした。

具体的にはまず、1年生から9年生までを3つの発達の段階(1～4年、5～7年、8～9年)に分け、身に付けさせたい力(具体的な「16の姿」)【表1】を設定し、子供たちと共有した【写真2】。

次に、本校の児童生徒たちに身に付けさせたい力がどの程度、達成されているかを把握するためにキャリア教育アンケートを実施した。そして、その結果【図2】をもとに、身に付けさせたい力の重点指導内容【表2】を定め、指導計画(キャリアマップ)【図3】を作成した。

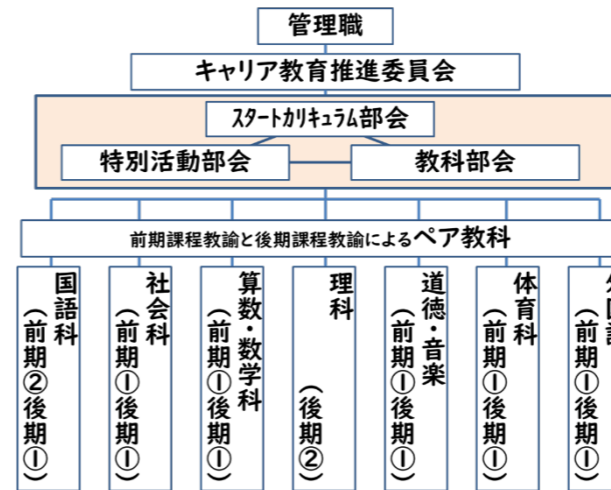
最後に、具体的な「16の姿」を核として、より一層のキャリア教育を推進していくこととした。

**活動の成果**

- キャリア教育を通して目指す児童生徒の姿を、具体的な「16の姿」として設定したことで、目指す子供像が鮮明になり、共通実践することができた。
- キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成するという視点に立って、教育課程を見渡すことで、教科横断的な視点をもてるようになった。

**アピールポイント(アイディアや工夫)**

- 義務教育9年間を一貫して教育するという義務教育学校の特性を踏まえ、1年生から9年生を3つの学年の段階に区切り、キャリア教育を通して身に付けさせたい力を具体的な姿で設定した。
- 身に付けさせたい力に着目した指導計画を作成し、教育活動全体を通じて実践していくという意識の向上につなげることができた。



【図1】本校の研修体制

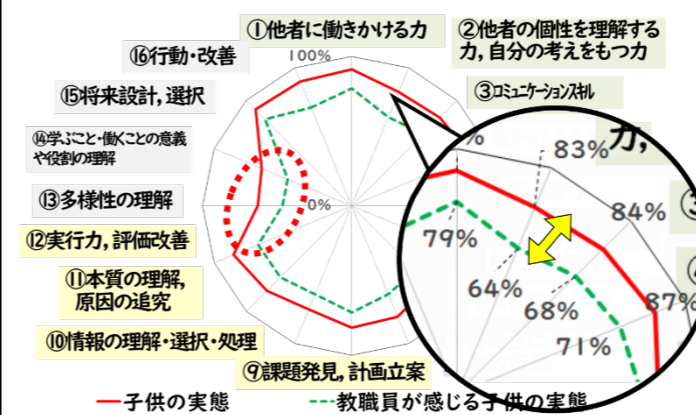


【写真1】職員研修の様子

【表1】具体的な「16の姿」(一部抜粋)

目指したい16の姿	基礎的・汎用的能力との対応	1～4年に目指す姿(身に付けさせたい力)	5～7年に目指す姿(身に付けさせたい力)	8～9年に目指す姿(身に付けさせたい力)
1 自分から周りの大人や友人に声をかけることができる。 【他者に働きかける力】		学校で友達や先生に対して、進んで挨拶や返事をすることができる。	児童生徒会活動で、進んで下級生に声をかけることができる。	学校や地域の活動で、自分から周りの大人や友人に声をかけることができる。
2 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めることができる。 【他者の個性を理解する力】【自分の考えをもつ力】		授業中、友達の話や先生の話を最後まで聞くことができる。	授業中、相手の立場に立って話を聞き、それに対する自分の考えをもつことができる。	授業中、相手の立場に立って話を聞き、自分の考えを深めることができる。
3 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えることができる。 【コミュニケーションスキル】		発表するとき、自分の考えや気持ちを順序よく話すことができる。	発表するとき、根拠をもとに自分の考えや意見を伝えることができる。	発表するとき、資料や図、ICT等を活用して自分の考えや意見を筋道立てて伝えることができる。
4 自分から役割や仕事を見つけたら、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動できる。 【チームワーク】【リーダーシップ】		日直や係、当番などの活動をするとき、最後まで自分の仕事をやり通すことができる。	専門部活動をするとき、自分の仕事を見つけ、周囲と力を合わせて行動できる。	異年齢集団での活動(縦割り班活動や掃除)をするとき、役割を分担し、周囲と力を合わせて行動できる。
5 やりたいことがあってもやるべき事を優先し粘り強くコツコツと努力することができる。 【忍耐力】		日直や係、当番などの自分のやるべき仕事を毎日続けることができる。	自分がやらなければならないことに優先順位をつけ、粘り強く取り組むことができる。	学級活動、児童生徒会活動で、他者と協力しながら、やるべきことを粘り強く努力することができる。

**キャリア教育アンケート結果(1～4年)**



【図2】キャリア教育アンケートの分析

【表2】各学年の重点目標

学年	キャリア教育の視点から身に付けさせたい力(重点目標)
1～4年	・友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めることができる。 A【他者の個性を理解する力】【自分の考えをもつ力】
5～7年	・児童生徒会活動で、進んで下級生に声をかけることができる。 A【他者に働きかける力】
8～9年	・分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問したりすることができる。 C【情報の理解・選択・処理等】

**キャリアマップ 5・6年**

キャリア発達課題を踏まえた指導目標(重点課題)	苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや、自分への自信につながるようにする。	児童生徒会活動で、進んで下級生に声をかけることができる。	子供の反応例(評価ポイント)
① 自己紹介を通して自己理解を深めさせるとともに、自己紹介をうながすや相づちを打ちながら聞かせることで聞く力を養うとともに他者理解へつなげる。	① 学活 4月「新学年になって」5・6年生としての自覚や目標に向かって努力する意欲を育てる。	① 学級活動、道徳	① いよいよ新学年だ。頑張るぞ。
② 道徳4月「あいさつ運動」あいさつのもつ本来の意味について考えを深め、進んで心のこもった挨拶をしようとする態度を養う。	② 道徳 4月「あいさつ運動」あいさつのもつ本来の意味について考えを深め、進んで心のこもった挨拶をしようとする態度を養う。	② 道徳 4月「あいさつ運動」あいさつのもつ本来の意味について考えを深め、進んで心のこもった挨拶をしようとする態度を養う。	② 上手には、私もあいさつが上手にできているよ。
③ 道徳5月「高学年になる。」集団生活とは何か、自分は何をすべきかについて具体的な考えを深め、進んで道徳のすべてが幸せな気持ちで過ごせることを目指そうとする態度を養う。	③ 道徳 5月「高学年になる。」集団生活とは何か、自分は何をすべきかについて具体的な考えを深め、進んで道徳のすべてが幸せな気持ちで過ごせることを目指そうとする態度を養う。	③ 道徳 5月「高学年になる。」集団生活とは何か、自分は何をすべきかについて具体的な考えを深め、進んで道徳のすべてが幸せな気持ちで過ごせることを目指そうとする態度を養う。	③ みんなで生活するときは、自分の役割をしっかりと果たさないとだめだよ。

【図3】キャリアマップ(一部抜粋)



【写真2】具体的な「16の姿」を説明している様子